

野村マイクロ・サイエンス株式会社 (東証PRM : 6254)

個人投資家様向け説明会資料

1. 会社概要

2. 事業概要

3. 業績

4. 今後の事業戦略

- 商 号 野村マイクロ・サイエンス株式会社
- 所 在 地 神奈川県 厚木市 岡田 2-9-10
- 代 表 者 取締役会長 千田 豊作
代表取締役社長執行役員 内田 誠
- 設 立 1969年4月
- 事 業 内 容
 - 超純水から排水までの水処理に関する各種施設・装置・薬品類の製造販売
 - 水処理・ガス処理等の施設に関する土木工事・管工事及び機械器具設置工事並びに各種施設の設計監理
 - 水処理施設・装置のメンテナンス
 - 各種産業向け純水供給事業
- 資 本 金 2,236百万円 (2024年3月末)
- 連結子会社 国内1社、海外5社 (韓国、米国、中国(2社)、台湾)(2024年3月末)
- 従 業 員 数 376名(単体) 545名(連結) (2024年3月末)

- 1873年(明治6年)初代野村徳七が大阪で両替商を始める



- 1907年(明治40年) 2代目信之助が徳七を襲名
一代で金融財閥を作り上げる

- 野村鋳業 イトムカ鋳業所で水銀の採掘

- 北興化学工業が農薬などを製造

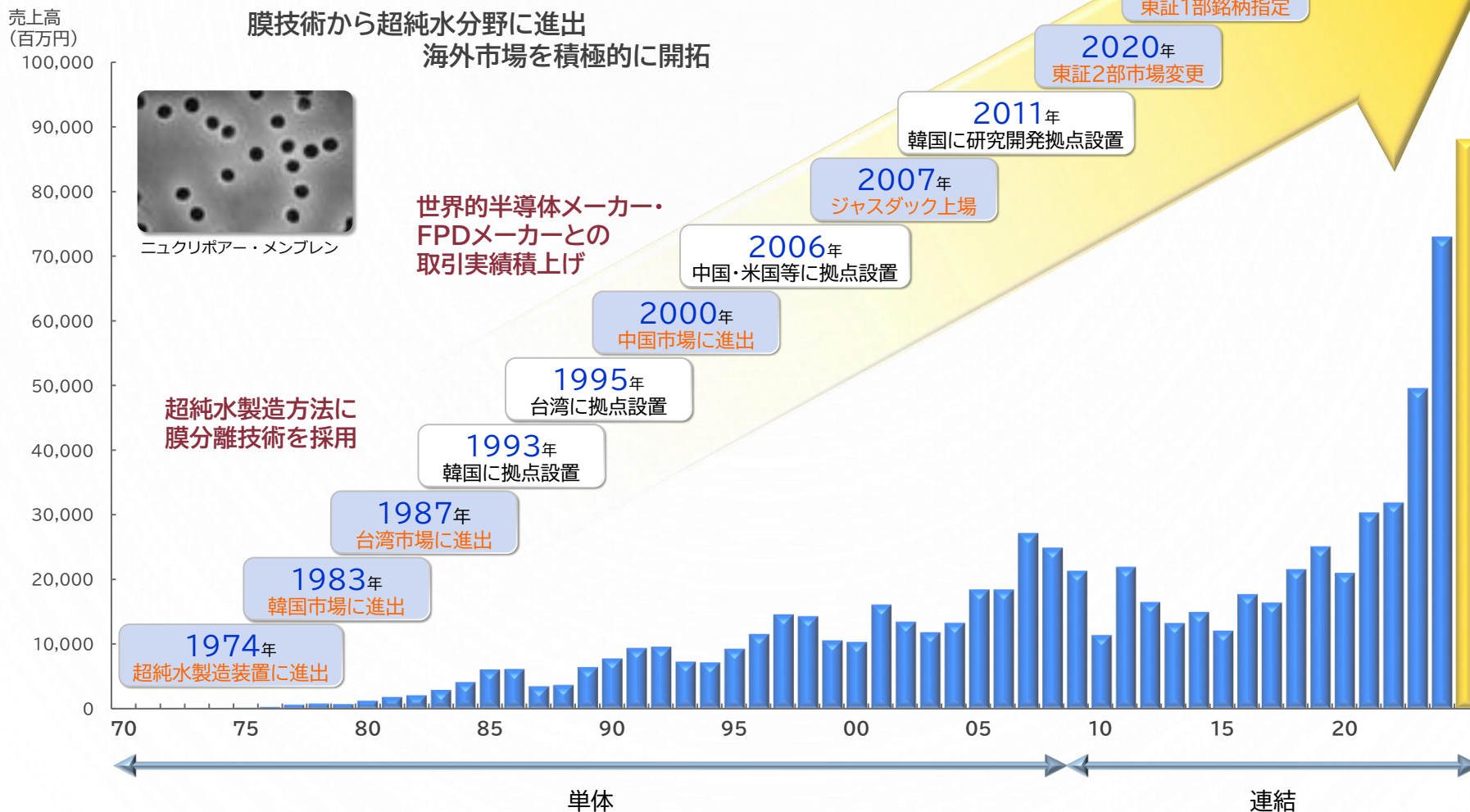


京都・碧雲荘
佛間の二階にあたるところが
徳七の書斎だった

- 1969年 野村マイクロ・サイエンス 設立

野村海外事業(株)と北興化学工業(株)が中心となり、
野村グループの全面的なバックアップのもと
米国GEの「ニュクリポアー・メンブレン」の
日本及び極東地区独占販売を目的として設立

1969年創業

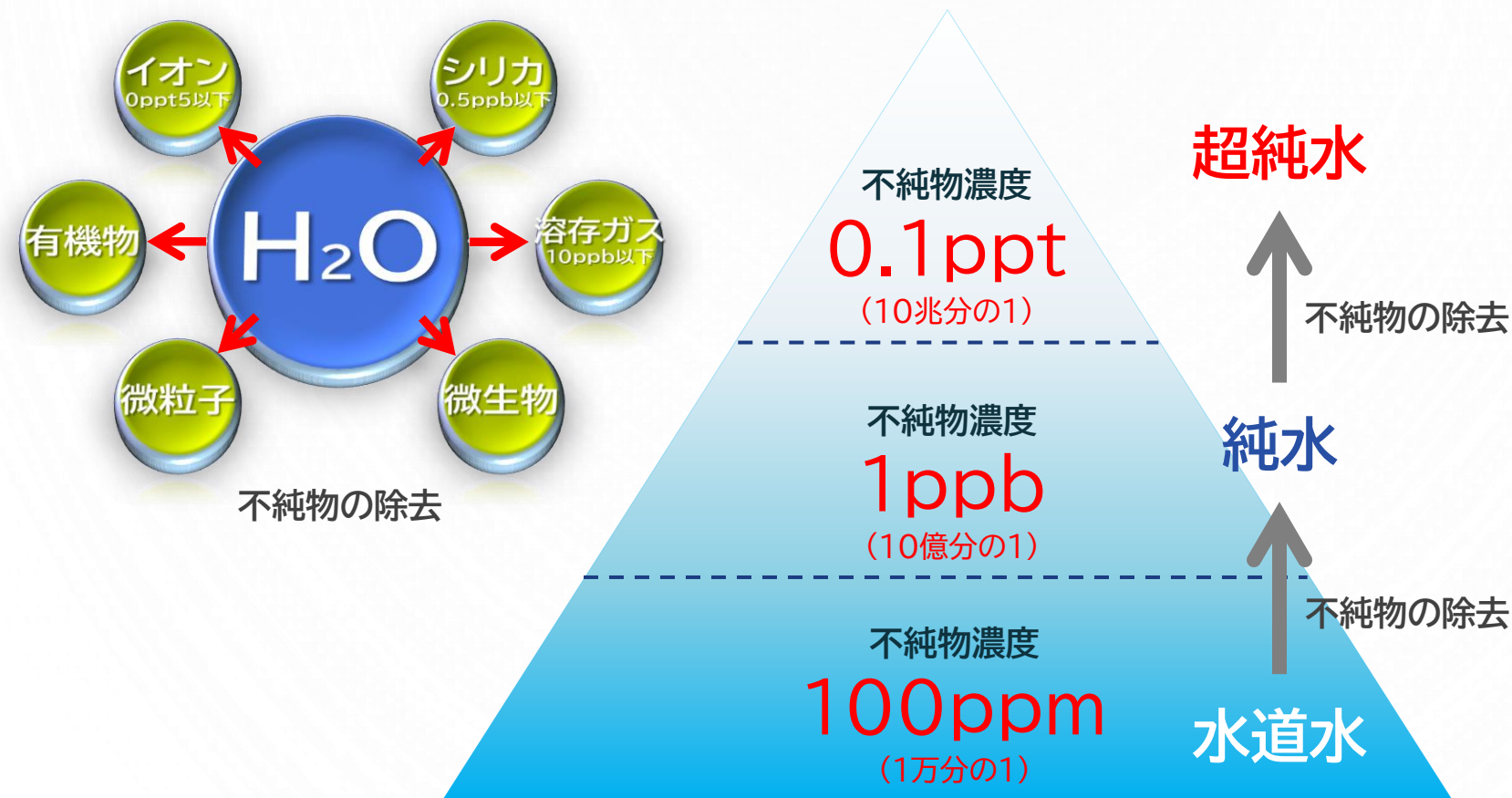


野村マイクロ・サイエンス

「超純水製造装置」に特化したエンジニアリング会社

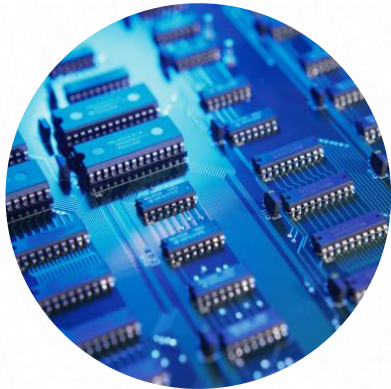
“純度100%の理論純水”に限りなく近い高純度の純水

水中に混在する不純物を除去した水(純水)を更に精製して純度を高めたもの
(理論純水(H₂O)で満たした東京ドームの中に醤油が1、2滴含まれる程度)



電子機器 や 医薬品 の生産に不可欠なのが **“超純水”**

半導体デバイス



フラット・パネル・ディスプレイ



医薬品



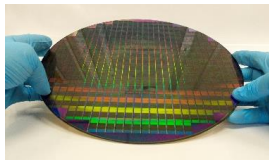
利点

- 豊富で容易に得られる(14億km³)
- 経済的
- 安全
- 溶解性が高い(高い極性を持つ)
- 再利用が比較的容易
- 環境に優しい

欠点

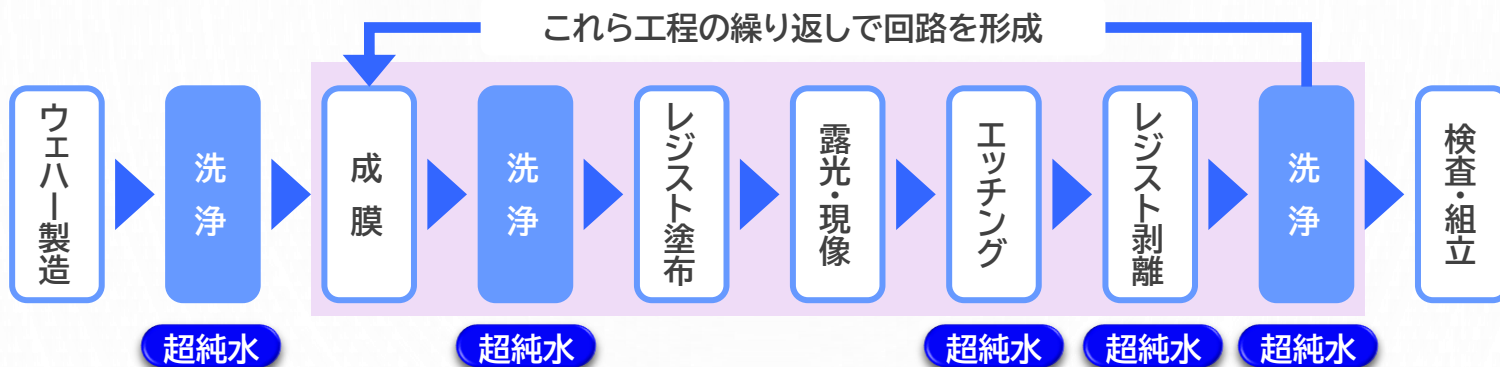
- 表面張力が高い
- 乾燥しにくい
- 非極性物質は溶解しない



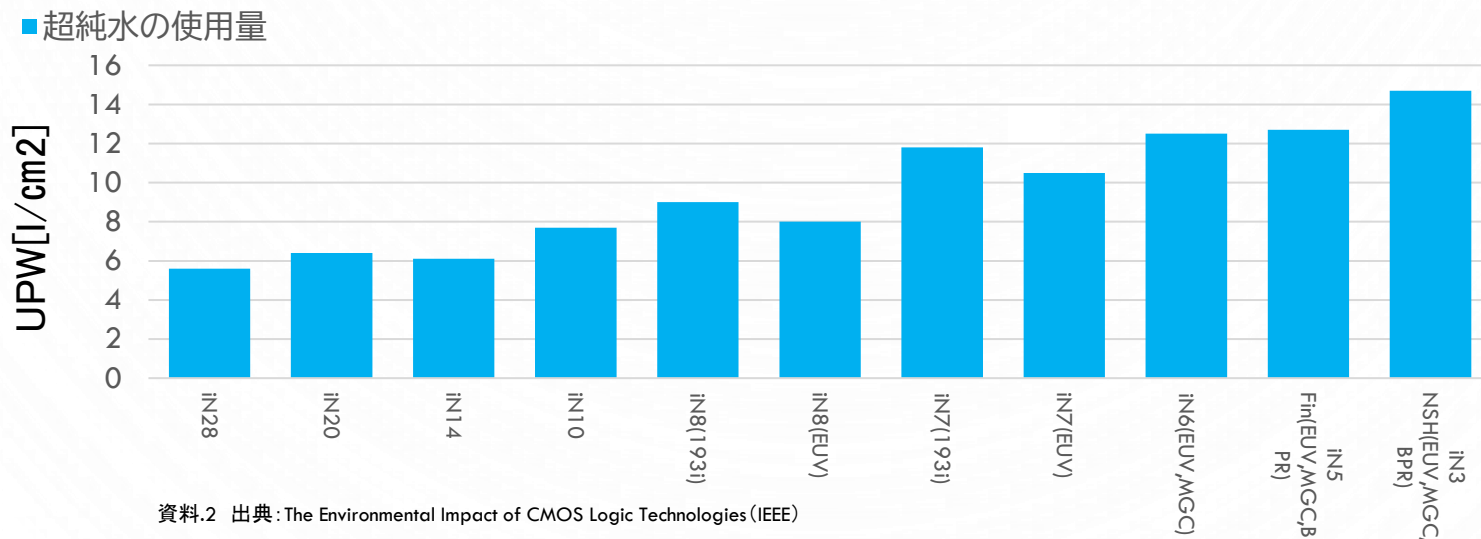


半導体製造工程の約3割は洗浄工程

主にフォトリソの溶解やエッチングの除去、洗浄に使用



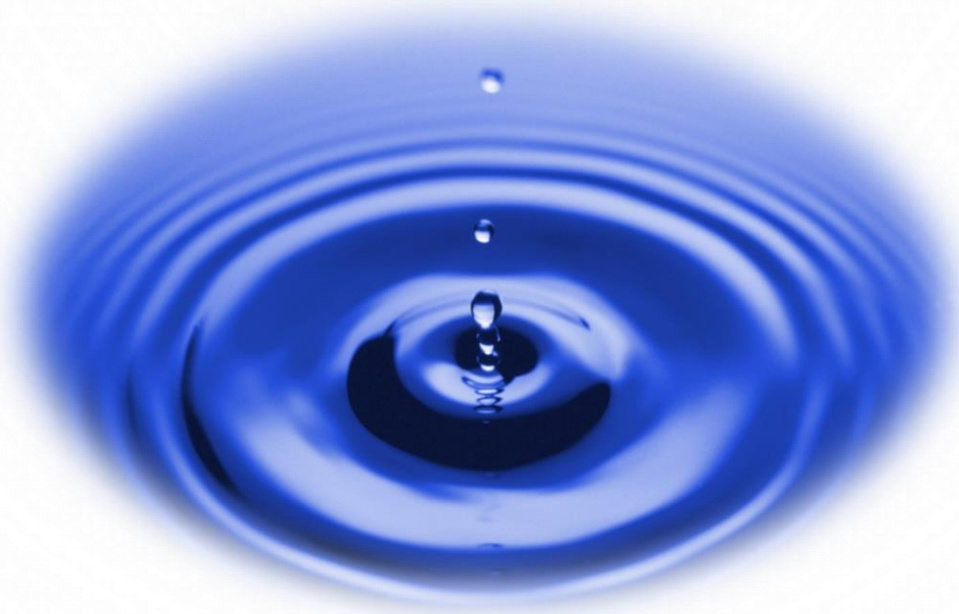
今後の微細化・多層化による洗浄工程の増加とともに、超純水の使用量は増加



資料.2 出典: The Environmental Impact of CMOS Logic Technologies (IEEE)

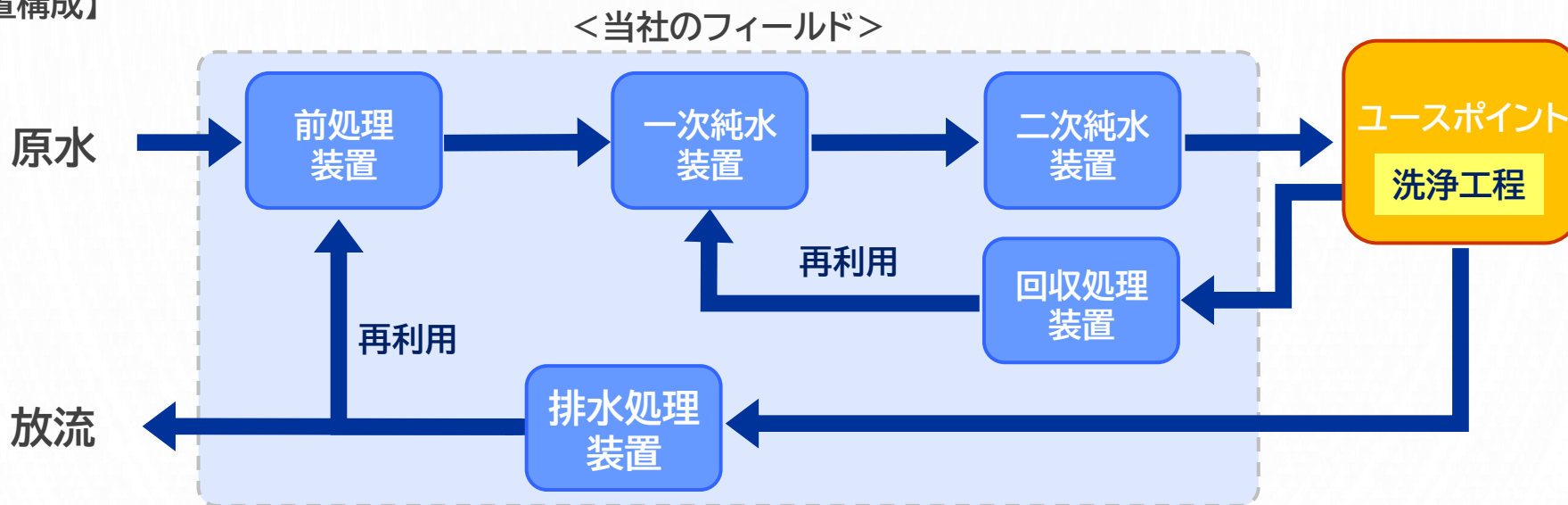
“水の純度”が半導体の性能と品質(歩留まり)に大きく影響

半導体製造技術の高度化・微細化により高純度の超純水が必要



前処理から放流まで、トータルなサービス・製品供給が可能

【装置構成】



【超純水製造装置(水処理プラント)】 ※ イメージ



【主要構成機器】



砂ろ過塔



イオン交換装置



逆浸透装置



EDI本体



有機物分解装置

pptレベルの”超微量分析技術”を核に更なる高純度化に対応



膜分離

水中のイオン、有機物、微粒子、微生物等を除去

フィルター (MF)
逆浸透 (RO)
限外濾過 (UF)



光化学

水中の有機物を分解

低圧紫外線ランプ
高圧紫外線ランプ
(触媒、酸化剤)

コア・コンピタンス

超微量分析技術



分析センター



イオン交換

水中のイオンを吸着除去

カチオン交換樹脂
アニオン交換樹脂
キレート樹脂
電気式脱イオン装置



バイオ

微生物による有機物分解・脱窒素

好気性
嫌気性

1. 会社概要

2. 事業概要

3. 業績

4. 今後の事業戦略

水処理装置事業

96.6%

70,560百万円



超純水製造装置(水処理プラント)



超純水分析



ユニット型純水製造装置

その他の事業

3.4%

2,460百万円



高純度薬品



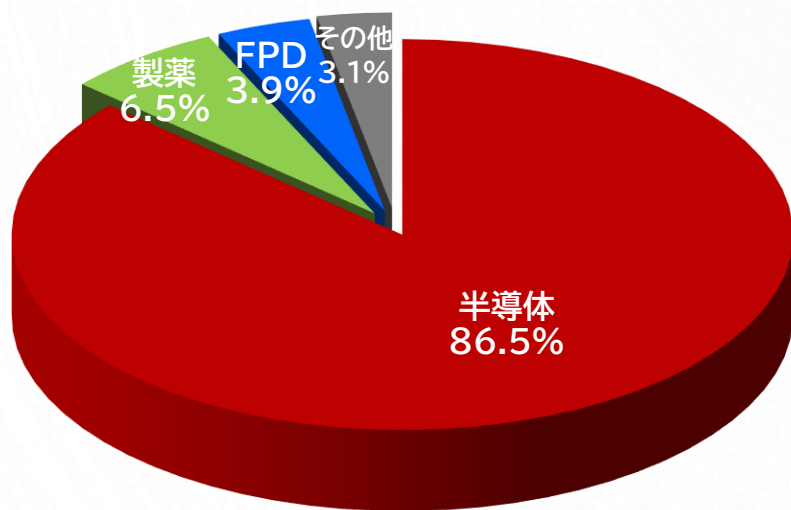
配管材料



■ 水処理装置事業 ■ その他の事業

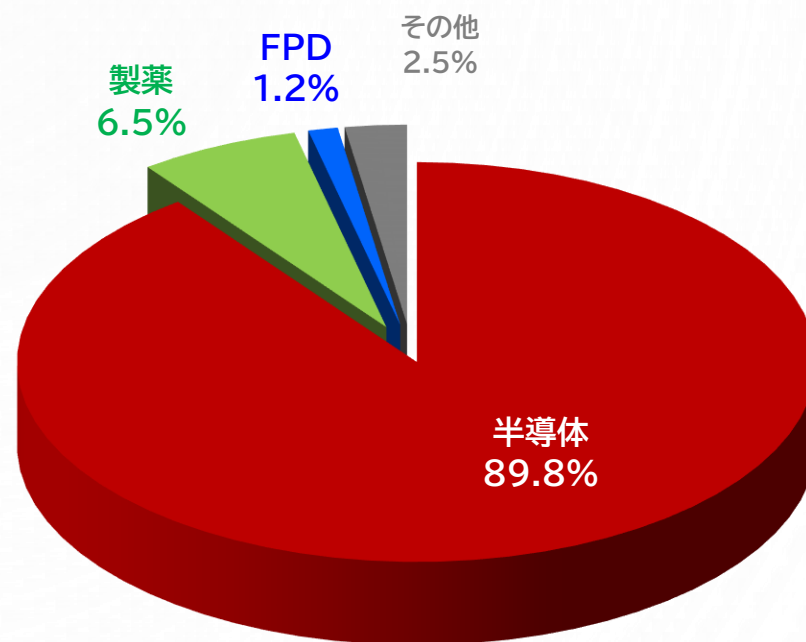
■ 業種(売上相手先)別(メンテナンス・消耗品を含む)

【2023年3月期】



売上高 495億

【2024年3月期】



売上高 730億

* FPD:フラットパネルディスプレイ

■ 成長市場である東アジアを中心に海外展開

中国

- ・上海野村水処理工程
- ・野村(上海)水処理工程技術



韓国

野村マイクロ・サイエンス コリア



米国

野村マイクロ・サイエンス USA



日本

野村マイクロ・サイエンス



台湾

野村微科学工程



1 最高純度の水を提供する超純水専門メーカーとして成長

膜分離、イオン交換技術を活用し、1974年から超純水分野に特化

2 海外市場(アジア地域)で強固な事業基盤を構築

業界に先駆けて1980年代から韓国・台湾市場に進出

3 多様化・高度化するユーザーニーズへの対応力

高純度化、環境規制対応、供給水量拡大、短納期化に的確な対応

4 超純水分野で培ったエンジニアリング技術の展開

環境対応をコンセプトに新技術(機能水・ノンケミカル)、新事業(排水回収等)を強化

1. 会社概要

2. 事業概要

3. 業績

4. 今後の事業戦略

- コロナ禍による巣ごもり需要で、次世代通信規格5Gやデータセンター関連等による半導体生産量の大幅な増加
- コロナ禍以降も、スマホやPC等の従来需要に加え、自動車の自動運転技術の高まり、生成AIのカンブリア爆発等により、半導体の用途並びに需要量が急激に増加
- 地政学リスクや経済安全保障に向けた半導体製造強化の為、各国の補助金支援等を背景に半導体工場の建設が加速
- 半導体の微細化、積層化、洗浄工程の増加を背景とした超純水製造装置の大型化により受注高が伸長



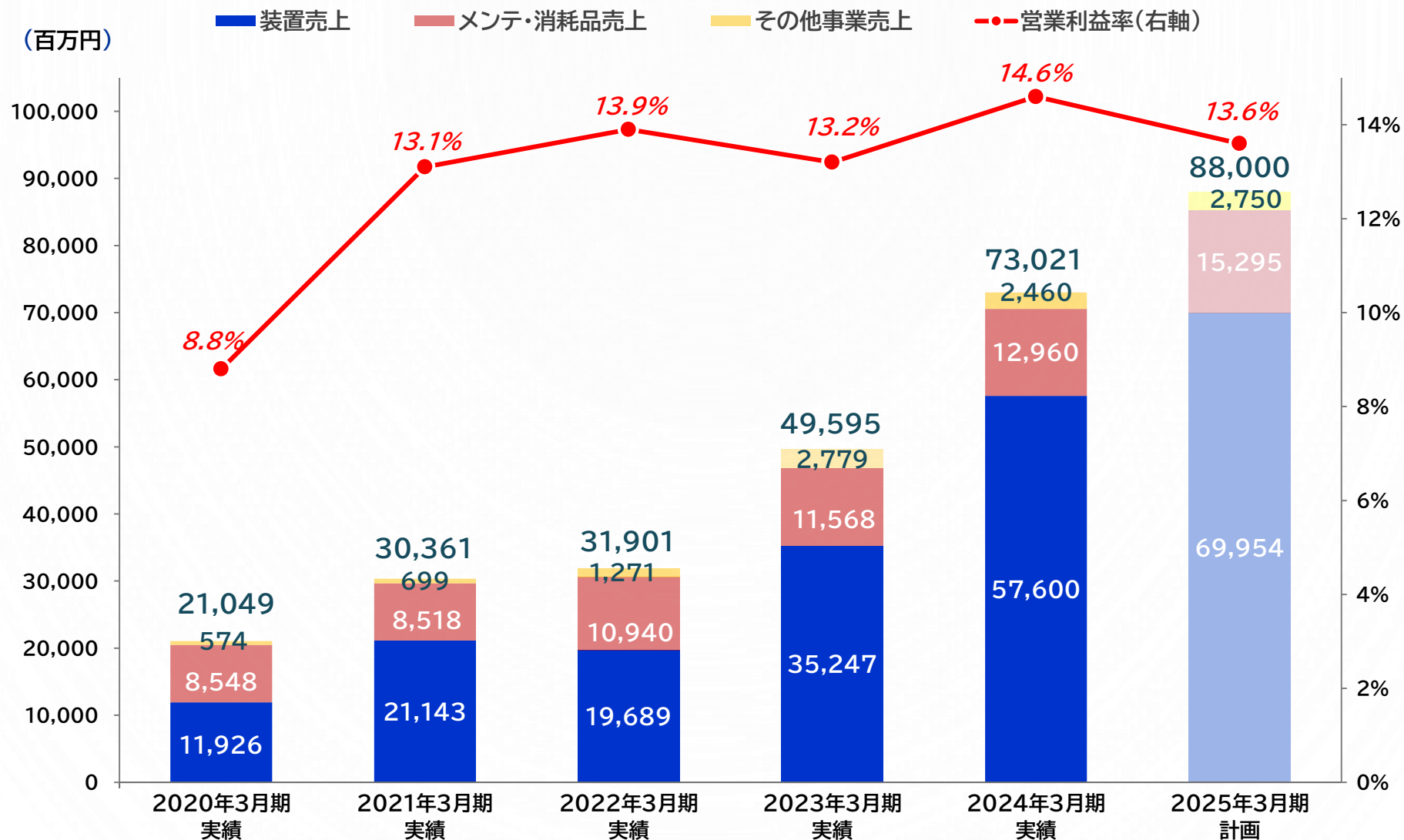
半導体製造設備投資が急伸

2024年3月期業績 及び 2025年3月期 業績見通し(連結)

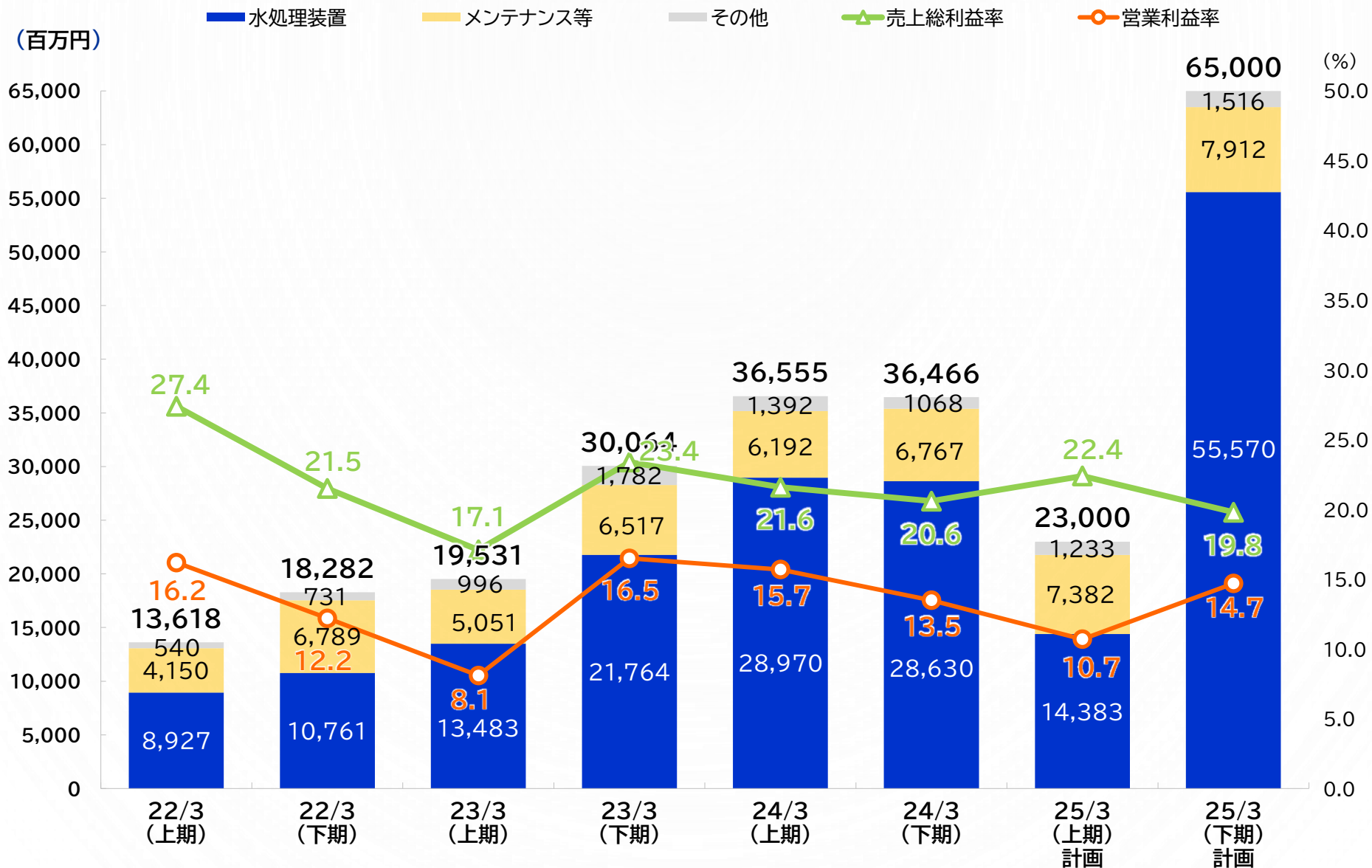
	2024年3月期	2025年3月期 (計画)			
	通期 (百万円)	上期 (計画)	通期 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	73,021	23,000	88,000	+14,978	+20.5
売上総利益	15,407	5,150	18,000	+2,592	+16.8
営業利益	10,647	2,450	12,000	+1,352	+12.7
経常利益	10,819	2,350	11,800	+980	+9.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,978	1,700	8,650	+671	+8.4
1株当たり当期純利益	213.47円 (*853.89円)	45.28円	230.40円	+16.93円	+7.9
1株当たり配当金	62.5円 (*250.00円)	20.00円	70.00円	+7.50円	+12.0

*2024年4月1日付株式分割前数値を参考として併記

事業別連結売上高・営業利益率の推移(通期)



業績推移(半期毎)売上高 利益率



2025年3月期 第1四半期業績(連結)

	2024年3月期 (第1四半期)		2025年3月期 (第1四半期)			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	12,767		7,629		△5,138	△40.2
売上総利益	2,717	21.3	1,733	22.7	△983	△36.2
営業利益	1,664	13.0	362	4.7	△1,302	△78.2
経常利益	2,095	16.4	494	6.5	△1,600	△76.4
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,117	8.8	411	5.4	△706	△63.2

1. 会社概要
 2. 事業概要
 3. 業績
 - 4. 今後の事業戦略**
-

中期経営計画



TTT-26

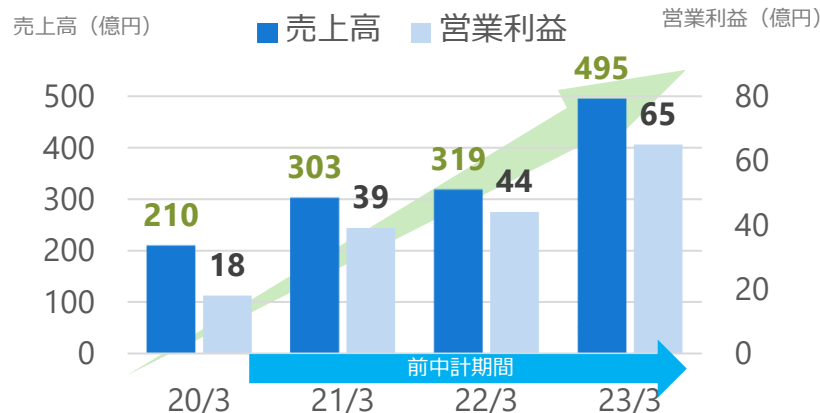
Together Toward Transformation-26

Creating the Future through Ultra-Pure Water Technology

～超純水技術で未来を創造する～

前中期経営計画（HiPES-2023）の振り返り～目標数値

NMS連結業績推移



前中期経営計画HiPES-2023（リバイス） 2021年11月12日公表

➤ 経営計画目標数値（2024/3期）

売上高 415億円

営業利益12%（50億円以上）

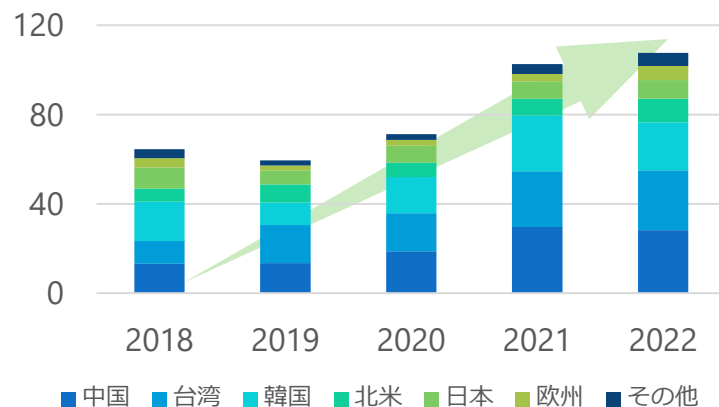


➤ 実績（2023/3期）

売上高 495億円 達成

営業利益13.2%（65億円） 達成

単位：BillionUSD 半導体製造装置販売額推移



・出典：SEMI 世界半導体製造装置販売額

- ✓ コロナ禍による行動様式、価値観の変化がデジタル化を加速、情報通信技術を促進
- ✓ 脱炭素目標など気候変動対応としてのGXを標榜した投資競争が激化
- ✓ 地政学リスクの高まりがサプライチェーンの混乱を招き、経済安全保障の重要性が顕在化
 - 半導体設備投資が活況であり、当社受注も好調に推移し、計画1年前倒しで目標数値達成
 - 2024年3月期も業績伸長の見込みであり、売上、利益ともに過去最高となる見通し

エンジニアリング体制強化 生産効率UP

- エンジニアリング機能を区分した専担制導入
- 新基幹システム導入
- 外部ネットワーク強化：協力会社と需給情報共有等

研究開発

- 分析精度向上と高性能半導体用超純水水質UP
- 省エネ、省スペース超純水システム納入
- 超純水の溶解力を活かした機能水の開発（高濃度オゾン水等）

戦略投資

- 膜と樹脂の洗浄・精製設備投資増強
- 厚木地区再編として新棟建設⇒新研究棟、新開発棟建設へ

人材育成・補強

- エンジニアリング部門中心に人員増強
- マネジメント強化に向けた研修体制構築
- エンジニアリング部門での女性の活躍

SDGs取組み

- NMS製品の推進（膜式注射用水製造装置、ノンケミカル型超純水装置）
- TCFDへの対応

経営ビジョン

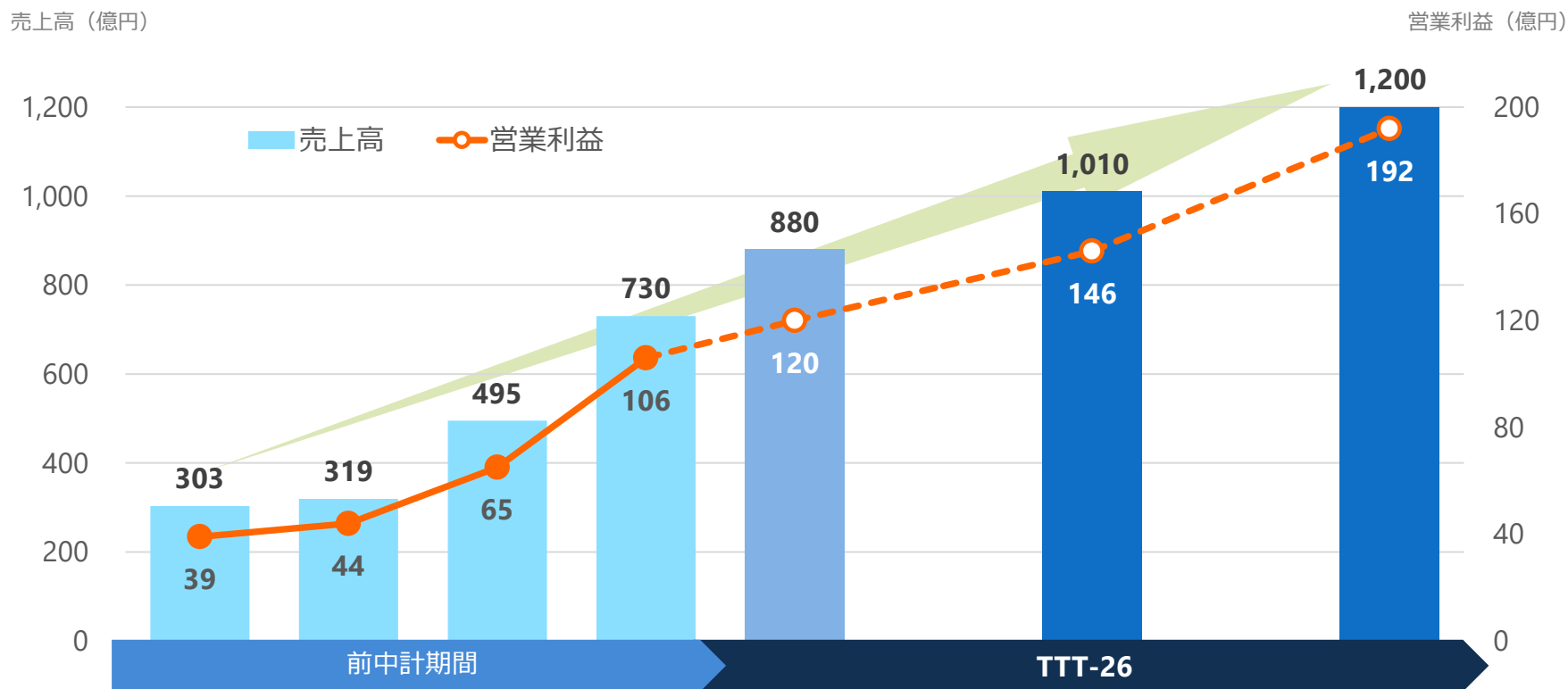
- ▶ アジアを中心とした半導体・製薬工場向け超純水装置の卓越した会社を目指す
- ▶ 高度な技術とサービスを顧客に提供し、ベストパートナーとして共に**経済的価値**と同時に**社会的価値**を創造するサステナビリティ経営を実行する会社を目指す

経営目標

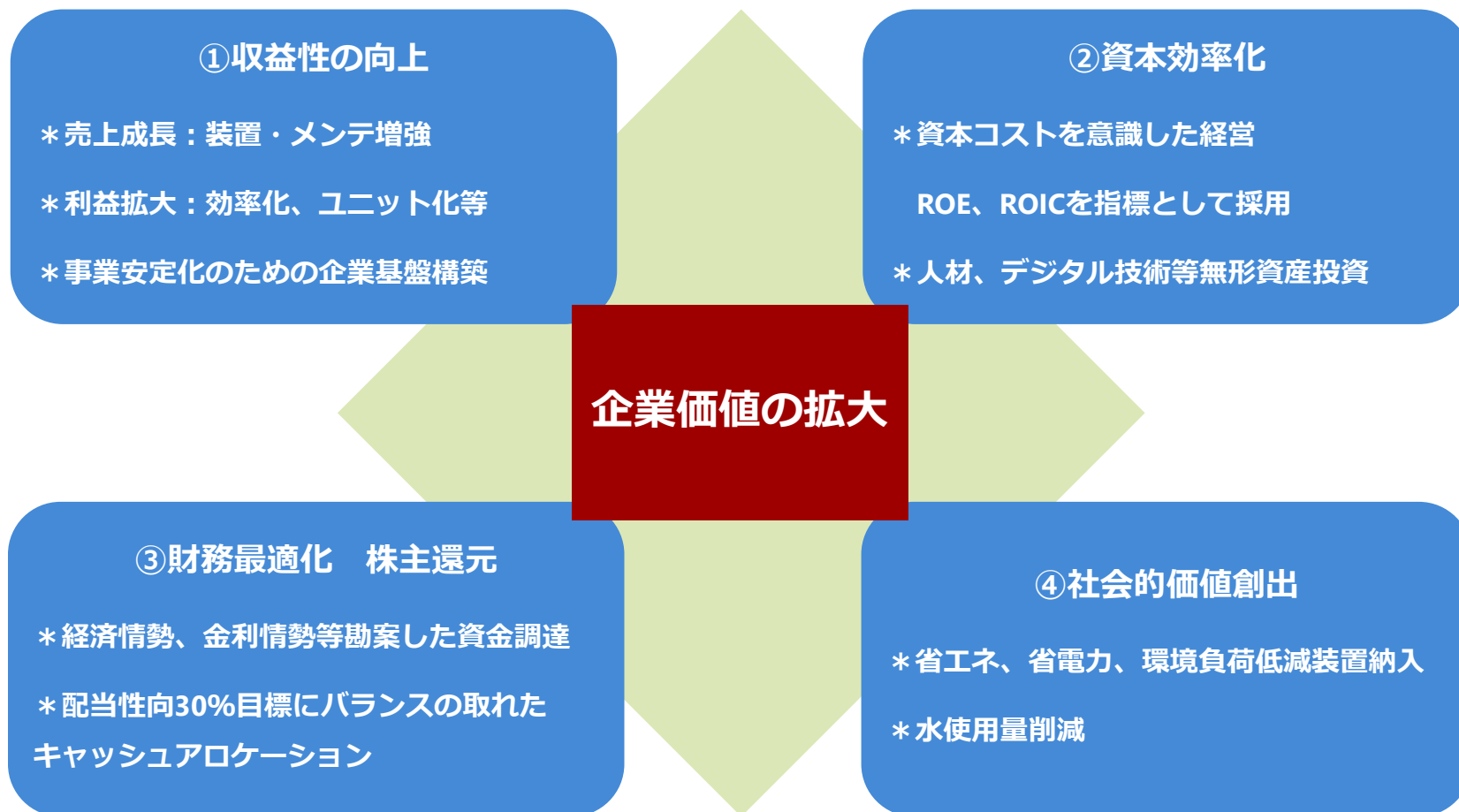
	2027年3月期(中期目標)	2031年3月期(長期目標)
売上高	1,010億円	1,200億円
営業利益	146億円	192億円
営業利益率	14.5%	16.0%
自己資本利益率 (ROE)	25%以上	30%以上
投下資本利益率 (ROIC) *	22%以上	25%以上

*ROIC = 税引営業利益 ÷ (有利子負債 + 株主資本)

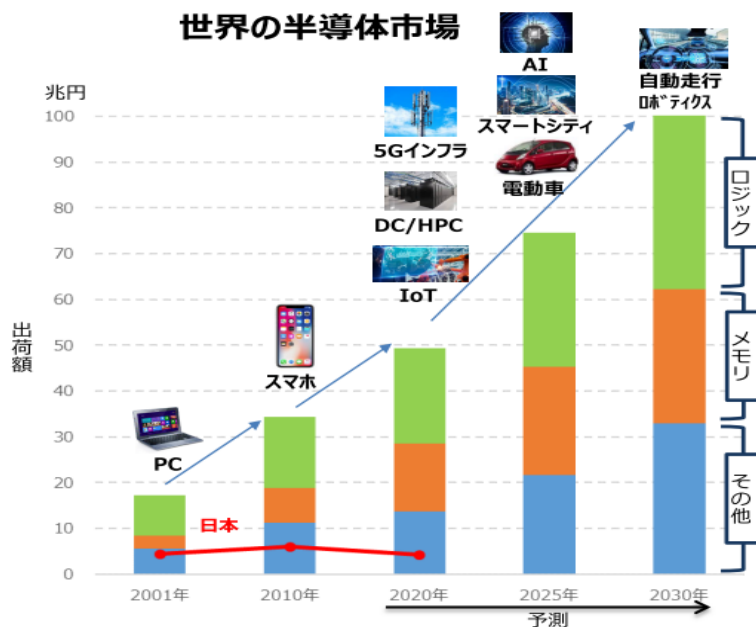
中期計画TTT-26 ハイライト



	21年3月期	22年3月期	23年3月期	24年3月期	25年3月期 (計画)	27年3月期 (目標)	31年3月期 (目標)
営業利益率	13.1%	13.9%	13.2%	14.6%	14.0%	14.5%	16.0%
ROE	22.3%	22.7%	31.4%	32.1%	30.0%	25.0%	30.0%
ROIC	21.2%	19.4%	24.0%	21.5%	22.0%	22.0%	25.0%



- ◆ 主要ドメインである半導体市場は2025年75兆円、2030年100兆円規模へ拡張の見込み CAGR7.2%成長（2030年まで） *資料.1
- ◆ デジタル投資、グリーン投資、エネルギー消費量の増大が半導体需要を加速させる
 - AI、IoTなどデジタル技術の活用拡大は電気消費量の急増へ：半導体は「性能向上」と「エネルギー効率改善」を両立
- ◆ 半導体プロセス微細化とともに超純水使用量の増加が見込まれている



	市場規模 2018年	製品例	主要企業
ロジック (制御用)	21兆円	プロセッサ	intel, tsmc
		GPU	QUALCOMM, NVIDIA
		SoC	
メモリ (データ記憶用)	18兆円	DRAM	SAMSUNG, SK hynix
		NAND	Micron, KIOXIA
その他	15兆円	アナログLSI	Infineon, SONY
		パワー半導体	ON Semiconductor
		イメージセンサ	MITSUBISHI ELECTRIC

(出典) Omdiaのデータを基に経済産業省作成

資料.1 出典：経済産業省 半導体・デジタル産業戦略

半導体関連

◆ 重要顧客の計画に沿い、且つCSVに基づく提案

- 高度な要求水質への対応とともに省電力・省スペース・水再利用等への対応

◆ 急激な成長を見込む半導体関連メーカーへのアプローチ強化

- 関連製造装置メーカー、薬品メーカーほか、あらゆる半導体関連企業で業容拡大・投資大型化の傾向
- 国内企業との取引増加：取引維持・継続・拡張のため顧客ニーズに合致した提案、アフターサービス（AS）の充実に注力
- 顧客サービス、関係強化としての運転管理業務拡充：顧客負担軽減、故障・不具合の未然防止及び安定収益確保

◆ 経済安全保障として半導体の戦略物資化が進む：半導体製造拠点の同盟国への分散化への対応

- 半導体生産拠点の世界各地への分散：顧客投資動向により個別検討・対応

製薬関連

◆ 成長分野をターゲットとしたアプローチ強化

- ワクチン、検査薬、バイオ医薬品への対応

◆ NMSの強みを活かした営業活動

- 膜式注射用水製造装置（UF型WFI）による省エネルギー設備、大型製薬用水設備の提案
- 営業からエンジニアリング、ASまで一貫したサービス提供可能な組織体制
- 海外展開も視野

エンジニアリングプロセスの改革

◆ エンジニアリング業務効率化

- プレハブ型施工、スキッド化、モジュール化の促進強化：工期短縮、コスト低減
- サプライチェーンの強化・拡大～強いパートナーシップの形成

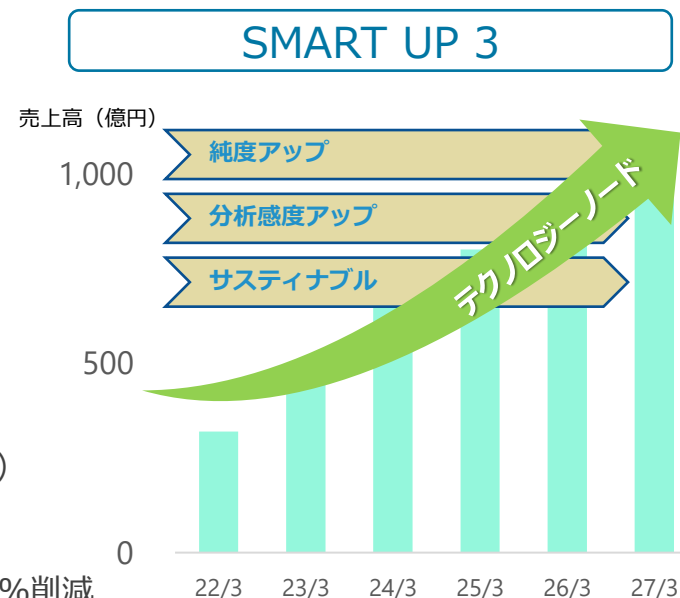
◆ 業容拡大のためのエンジニアリング運営体制構築

- 業務細分化促進、人材育成の強化

研究開発

◆ SMART UP3の加速

- 純度アップ
 - ・装置素材の超高純度化：メタルフリー
- 分析感度アップ
 - ・ppqレベルの開発に注力
- 環境貢献アップ
 - ・当社製品導入による環境負荷低減（機能水・ノンケミカル）
 - ・熱回収、圧力回収等の利用による省電力化：目標20%削減
 - ・排水回収、汽水・下水再利用による水使用量削減：目標20%削減



戦略投資

◆ 新研究棟及び新開発棟建設

- ppqレベル分析技術の開発を強化し、超純水システム内の不純物発生要因解明に向けた研究の実現と次世代半導体向け超純水製造装置のシステム評価・運転制御方法の開発を実施

財務戦略

◆ 外貨債権に対する為替リスク管理強化

- 連結各社で増加基調の外貨建て債権に対するリスク管理を強化

人的資本強化

◆ 人材育成・教育

- 人材開発室（新設）による全社的研修制度の確立とエンジニアを中心とした技術支援強化

◆ ダイバーシティ&インクルージョン

- 女性管理職登用、多国籍人材採用、障害者雇用率アップ

◆ 社員エンゲージメント、経営参画意識の向上

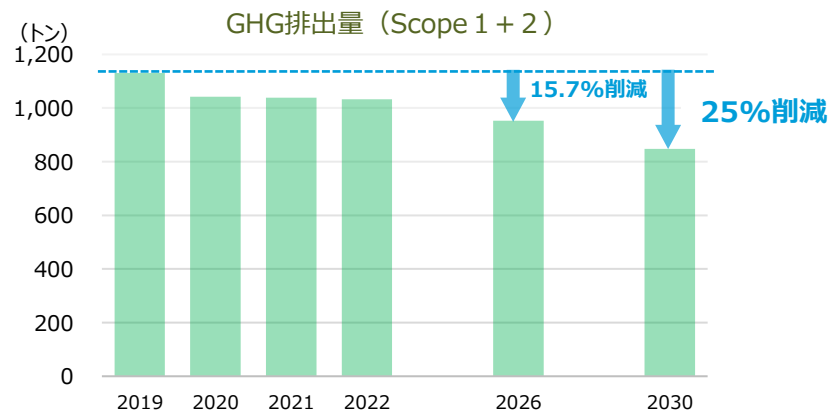
- エンゲージメントサーベイ実施、株式報酬制度拡充による経営参画意識の高揚

GHG*排出量削減目標 Scope1+2

◆ 2030年度までに25%削減（2019年度比）

- 事業活動により排出するGHG排出量を削減
 - ・ 太陽光発電パネル設置による再生可能エネルギー創出
 - ・ モーダルシフト推進
 - ・ エコロジーカー（EV、HV）導入促進

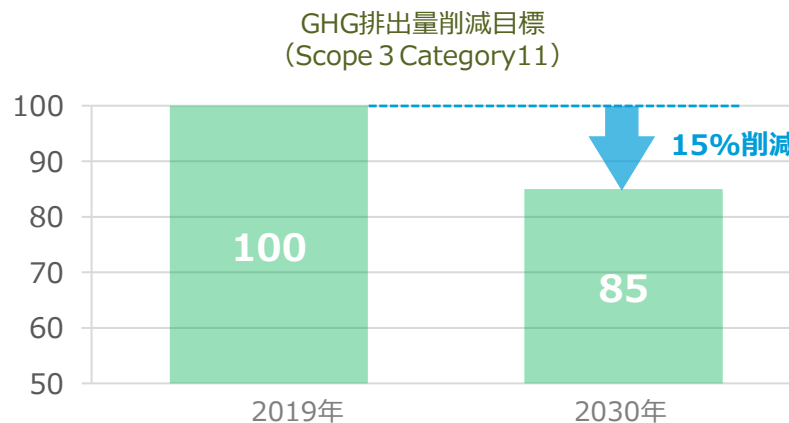
*GHG=温室効果ガス



GHG排出量削減目標 Scope3 Category11

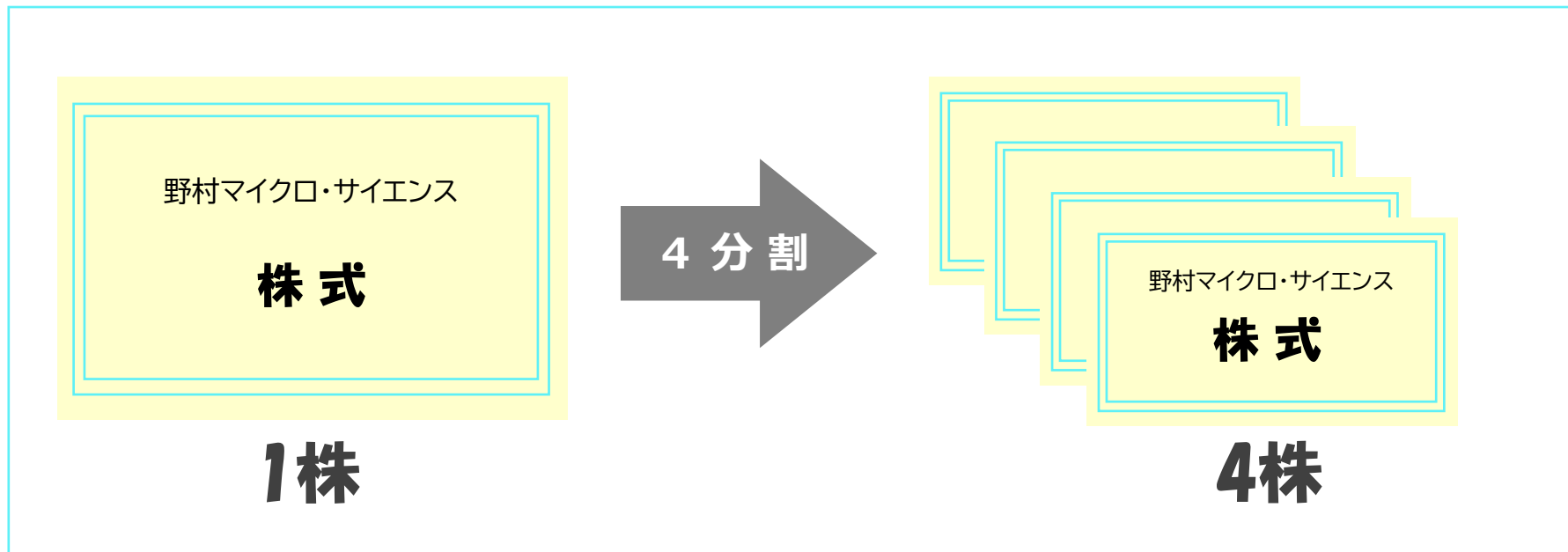
◆ 2030年度までに新規納入超純水製造装置のGHG排出を15%削減

- 地球環境に配慮した超純水技術の提案により最先端半導体製造を持続的にサポート
 - ・ 超純水装置の省エネ技術を発展させGHG排出量削減
 - ・ 水再利用技術とエネルギー回収を推進（熱再利用等）
 - ・ 薬品を使用しない装置、プロセスの提案



個人投資家の皆様の視点に立ち

株式分割により投資単位の引き下げを実施しました



効力発生日：2024年4月1日

※ 2024年3月31日(日)(実質上は3月29日(金))を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式1株につき4株の割合をもって分割しました

※ 詳細につきましては、2024年2月14日付『株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更に関するお知らせ』をご覧ください

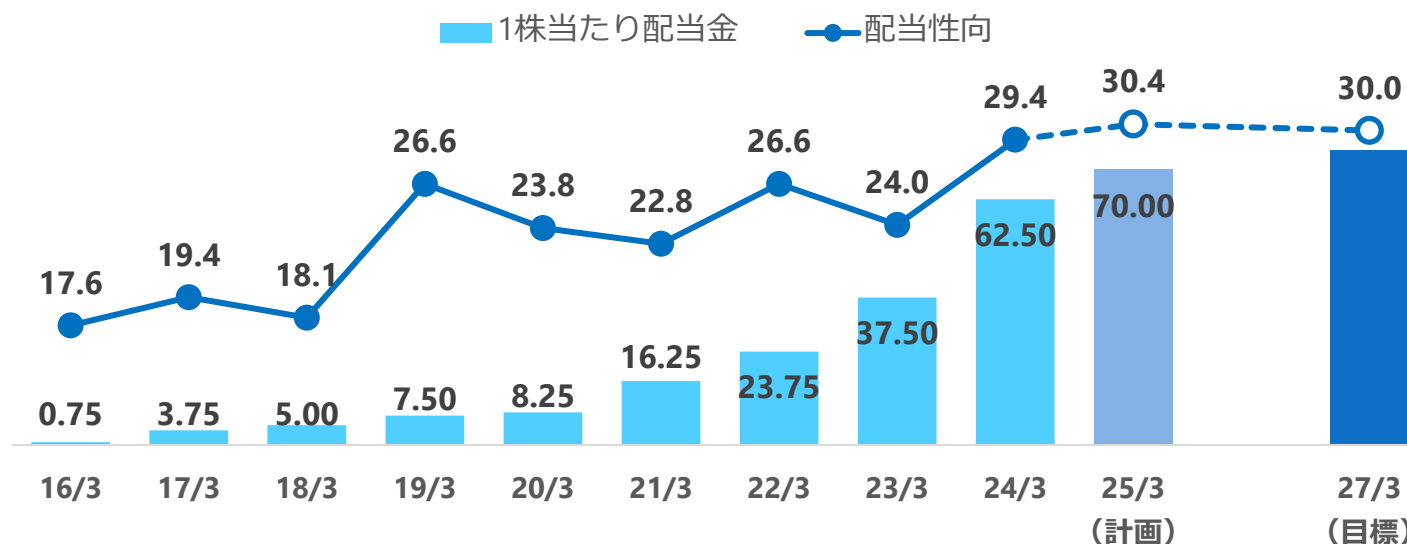
★ 継続的な企業価値拡大とともに安定した株主還元を継続

◆ 9期連続増配中

- 2016.3期より連続増配中

◆ 増収増益基調

- 今後も高い成長が予想される半導体・電子部品及び製薬分野を中心に増収増益を目指し、企業価値拡大を目指す
- 健全な財務基盤を維持しつつ、配当性向30%を目標にバランスの取れたキャッシュアロケーションを実践



* 2024年4月1日付で株式を分割を実施しております（1:4）。

* 過年度の1株当たり配当金は比較のため株式分割後の数値にて試算しております。

- 本資料には野村マイクロ・サイエンス株式会社(以下、弊社)の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。
- これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき弊社が判断した予測です。
- また経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

野村マイクロ・サイエンス株式会社 総務部

TEL 046-228-5195

URL <https://www.nomura-nms.co.jp>